

平成29年2月12日池袋健康セミナー

# 「孟宗竹に学ぶ会」第113回

## 医学の常識を変える予防医学

場所 東京芸術劇場会議室5階 豊島区西池袋1-8-1 ☎03-5391-2111  
日時 平成29年2月12日(日)受付 午後1時 開始 午後1時20分  
終了 午後4時30分

主催 竹彩の会 主宰 西濱賢二

講師 日下英元 東京大学法学部 昭和45年卒  
孟宗竹の学者 孟宗竹を40年も独自に研究、その成果を発表

特別講師 東田 滋 埼玉県狭山市在住

司会 西濱賢二 えん企画・竹彩の会 主宰

開会の御挨拶 主宰 西濱賢二 1時10分

自己紹介 御一人2~3分程度

第1部 特別講師 東田 滋 2時00分  
「バンブリアンのあれこれ」

休憩 3時00分

第2部 講師 日下英元 3時15分  
「心と霊は身体の原点」

質疑応答を中心として(個別相談を含みます) 4時30分(終了)

主催者 竹彩の会 埼玉県狭山市南入曽553-1 FAX&FAX 042-956-1707

後援者 株式会社M・B・C 埼玉県狭山市入間川3丁目11番25号

◎第114回セミナーは平成29年3月19日(日曜日)特別講師は 先生です。  
会場は東京芸術劇場5階(池袋西口)です。



ヒステリー；病気ではないのに身体機能の異常が現れる  
不安が身体症状に転換された

心身症：感情的な要因が身体的な症状の要因となる。

症状 胃や十二指腸潰瘍・喘息・高血圧・潰瘍性大腸炎・皮膚病等

神経性食欲不振；体重を減らして痩せようとし、その度が過ぎたとき生じる

症状 疲労感が強く元気がない

落ち着かない行動を続けるため体重は更に減少する

言い表し難い感情問題・・学業がプレッシャー

思春期以降の身体の発達に不安

鬱病と躁鬱病 鬱病の始まり；非常に不幸な事件に遭遇

不幸が長く続く 強い反応が生じる

胎内で情動を調節する機構が変調を起こした→脳内の特殊な部位にある

神経細胞間で働く化学伝達物質の変化が生じる

躁鬱病（内因性鬱病）躁状態 活動的になり過ぎる

意味も無く上機嫌になる

異様に過敏になる

情動のコントロール機構が変調をきたしたことによる

一人の人が躁と鬱の両極端な状態を示すときは躁鬱病と称す

お産前後の女性の約半数 短期間の鬱状態が現れる 通常は数日で消失

涙もろく感情的になり悲観的な気分になる

女性ホルモンの大きな変化に関係

重い鬱病は自殺企図に繋がる

睡眠のリズムが乱れ、昼間でもイライラして落ち込みがひどくなる。食欲が低下し体重も減る。男女を問わず性欲が低下する。

親しいものとの死別等

精神分裂病

重症の鬱病患者と同様、情報伝達の神経系に化学的な異常が生じた  
化学的な異常が生ずる傾向は遺伝によることが多い。

成長期の環境や成人になってからの環境要因が大きな影響を与える。それに生活上の諸問題が積み重なっている。

分裂病：思考・感情・知覚等に高度の異常を生じているが記憶や知能は犯されてはいない。

最も特徴的な症状は幻覚である。

人の声が聞こえる幻聴が一般的で、妄想も見られる。迫害を受けている等に取り付かれることも多い。

論理的に思考することが困難になる。感情障害が現れ、興奮状態になるような過度の感情的反応を生じたり、無欲状態や無感情に成る場合もある。

年齢になると迫害妄想等の症状が出るだけで他の知的機能は犯されないことが多い。

#### 身体の病気に伴って生じる精神障害

錯乱状態；まわりの出来事が十分に理解できなくなり、場所・時・出会う人などが分からなくなる状態。

同時に、実在しないものが見えてきたり、落ち着かなくなり、不安感が生じたりする。

手術やお産の後などにも生じる

細菌感染を引き起こす・血液に化学変化を生じさせる

記憶が徐々に薄れる 脳の局所的な病気

知的活動が障害される 脳腫瘍

動脈硬化

脳細胞の変性（中年）

老人の精神病 原因 脳の老化 記憶力の低下・知的活動が鈍くなる

孤独感・無力感に繋がり老人性鬱病の原因になる。

脳細胞や血管の老化が進行することがある 老人の痴呆

痴呆；精神機能が徐々に崩壊し、錯乱・記憶障害・判断力障害・時間や場所などに対する見当識（意識）の低下が生じる。

要因・・・退職・死別・一人住まい等

パーキンソン病 広義

狭義